

問1 現在の奈良県明日香村周辺、当時の政治の中心地に建立された日本最古の本格的寺院について、その建立の背景や特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2025年 東京都公立入試 類似）

- 蘇我馬子が大陸の技師に学んで建立し、瓦葺きの屋根や五重塔を備えた新しい建築様式を日本に定着させた。
- 聖徳太子が建立した世界最古の木造建築物であり、法隆寺とともに飛鳥文化を象徴する寺院である。
- 鑑真が唐から来日した際に建立され、当時の最新の仏教教義を学ぶための国立の寺院として機能した。
- 平氏が権力を握った時代に、瀬戸内海の海上交通の安全を祈願するために大陸の技術を模して造られた。

問2 7世紀半ば、朝鮮半島の南西部に位置し、日本（倭）と親密な関係にあったものの、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた国はどこか。日本はその復興を支援するために、663年に朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで大敗を喫することとなった。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

- 百済
- 新羅
- 高句麗
- 任那

問3 7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇を助けて政治を行っていた時期に、中国大陸や朝鮮半島の強い影響を受けて成立した、日本最古の仏教文化を何と呼びますか。（2019年 滋賀公立入試 類似）

- 飛鳥文化
- 白鳳文化
- 天平文化
- 国風文化

問4 飛鳥時代に聖徳太子（厩戸皇子）らが定めた「冠位十二階」という制度の目的として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

- 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人として登用すること
- 有力な豪族が代々高い地位を独占し、世襲することを認めること
- 役人が守るべき道徳的な規範を示し、政治の規律を正すこと
- 地方の豪族を都に集め、天皇の護衛を任せること

問5 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は天皇中心の国づくりを進めるため、当時中国を統一していた隋に使節を派遣しました。この使節の代表として大陸へ渡り、進んだ制度や文化を日本に持ち帰る役割を担った人物は誰ですか。（2024年 奈良公立入試 類似）

- 小野妹子
- 鑑真
- 空海
- 中大兄皇子

問6 645年に始まった大化の改新を中臣鎌足とともに主導した中大兄皇子は、後に天皇として即位し、わが国初となる全国的な戸籍を作成するなどの政治改革を推進しました。この人物の名称として正しいものを選んでください。（2018年 愛媛公立入試 類似）

- 聖徳太子
- 天智天皇
- 天武天皇
- 桓武天皇

問7 7世紀中頃の東アジア情勢において、唐と新羅の連合軍に攻められた百済を救援するため、日本が朝鮮半島へ大軍を派遣して戦い、大敗した出来事を何というか。（2019年 鳥根公立入試 類似）

- 白村江の戦い
- 文永の役
- 刀伊の入寇
- 元寇

問8 推古天皇の治世における出来事として、聖徳太子や蘇我馬子とともに進められた政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 静岡公立入試 類似）

- 冠位十二階の制定、十七条の憲法の公布、遣隋使の派遣
- 大宝律令の完成、平城京への遷都、和同開珎の鑄造
- 公地公民の制、班田収授法の実施、防人の設置
- 検地の実地、刀狩令の公布、身分統制令の発令

問9 7世紀初めの607年、推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸皇子）は、小野妹子らを中国へ派遣しました。大陸の優れた制度や文化を直接取り入れるために送られた、この使節の名称を答えなさい。（2026年 青森公立入試 類似）

- 遣隋使
- 遣唐使
- 遣新羅使
- 遣渤海使

問10 万葉集の中に「大王（天皇）は神でいらっしやるので、水鳥の集まる湿地を立派な都になさった」という趣旨の歌で称えられた天皇について、その統治の背景として最も適切な説明はどれか。（2022年 大分県公立入試 類似）

- 壬申の乱に勝利したことで絶大な権力を握り、天皇を神格化して官僚制の整備や律令の編纂を進めた。
- 大化の改新を断行し、蘇我氏を打倒することで、地方の豪族が支配していた土地と民を直接統治する仕組みを作った。
- 仏教による国づくりを目指し、全国に国分寺や国分尼寺を建立して、東大寺に大仏を造立した。
- 冠位十二階を制定することで、家柄にとらわれず才能のある人物を役人として登用する制度を整えた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 蘇我馬子が大陸の技師に学んで建立し、瓦葺きの屋根や五重塔を備えた新しい建築様式を日本に定着させた。	この寺院は、百済（朝鮮半島）などから招かれた瓦職人や寺工といった専門技師たちの指導によって造られました。それまでの古墳築造に代わり、寺院の建立が権力者の新たな権威の象徴となり、日本の建築技術を大きく飛躍させるきっかけとなりました。
問2	答え 1 百済	7世紀の朝鮮半島では、唐と結んだ新羅が勢力を拡大していました。660年に百済が滅亡すると、日本（倭）は友好関係にあった百済の遺臣から救援を求められ、復興を支援するために大軍を派遣しました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したことで、百済復興の道は閉ざされました。
問3	答え 1 飛鳥文化	聖徳太子が活躍した時期の文化は飛鳥文化と呼ばれます。大陸から伝わった仏教を国の政治に取り入れ、法隆寺などの寺院が建立されたことが特徴です。白鳳文化は7世紀後半、天平文化は8世紀（聖武天皇の時代）、国風文化は平安時代中期（藤原氏の全盛期）の文化であり、それぞれ特徴が異なります。
問4	答え 1 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人として登用すること	それまでの日本の政治は、氏姓（うじかばね）制度に基づいて家柄が重視されていましたが、冠位十二階の導入により、個人の能力や功績に応じて位が授けられるようになりました。これにより、天皇を中心とする中央集権国家の形成に向けて、有能な人材を政府の中核に集めることが可能になりました。冠位は一代限りのものであり、子孫に受け継がれないという点が大きな特徴です。
問5	答え 1 小野妹子	聖徳太子は、当時の先進国であった隋の優れた政治体制や仏教文化を取り入れることで、日本の国家としての地位を高めようとしていました。小野妹子はその代表的な使節（遣隋使）として抜擢され、対等な外交を目指す国書を携えて海を渡りました。これにより、後の大化の改新などにつながる重要な知識や技術が日本にもたらされました。
問6	答え 2 天智天皇	飛鳥時代、中大兄皇子は蘇我氏を打倒して大化の改新を断行しました。その後、天智天皇として即位すると、わが国最初の全国的な戸籍である「庚午年籍（こうごねんじやく）」を整備しました。これは、人民を国家が直接支配し、税の徴収を安定させるための重要な基盤となりました。
問7	答え 1 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われた、日本（倭）・百済遺民連合軍と、唐・新羅連合軍による戦いです。この戦いで大敗した日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州に水城を築いたり、防人を配置したりして国防を強化するとともに、都を近江の大津宮へ移すなどの対応を迫られました。
問8	答え 1 冠位十二階の制定、十七条の憲法の公布、遣隋使の派遣	推古天皇・聖徳太子・蘇我馬子の協力体制下では、才能ある人材を登用する「冠位十二階」（603年）、役人の心得を説いた「十七条の憲法」（604年）、そして対等な外交を目指した「遣隋使」の派遣が行われました。これらはいずれも、飛鳥時代における国家基盤を強化するための重要な事例です。
問9	答え 1 遣隋使	聖徳太子は、中国を統一した隋に対して小野妹子らを派遣しました。それまでの朝鮮半島を経由した交流だけでなく、中国と直接交渉を持つことで、先進的な仏教文化や政治制度を効率的に導入しようと試みました。これにより、冠位十二階や十七条の憲法といった、天皇を中心とする国づくりのための改革が進められることとなりました。
問10	答え 1 壬申の乱に勝利したことで絶大な権力を握り、天皇を神格化して官僚制の整備や律令の編纂を進めた。	天武天皇は壬申の乱での勝利を通じて、それまでの有力豪族による合議制的な政治から、天皇が絶対的な権力を持つ政治へと転換させました。万葉集の歌は、その強大な権力を「神」と表現して称賛したものです。彼はこの権力に基づき、飛鳥浄御原令の編纂や、のちの平城京へとつながる官僚機構の整備に着手しました。